

## 日本語版の出版にあたって

カリフォルニア大学バークレー校のミゲール・アルティエリさんとクララ・ニコルズさんは、アグロエコロジーという新しい研究分野の先駆者として知られている。アグロエコロジーとは、あえて直訳すれば「農業生態学」となる。しかし、その内容は、生物学の一分野としての生態学の枠内にはとどまらず、農業の実践における伝統知と科学知の接点を考えるとともに、その背後にある社会の仕組みまでを論じる超学際的なアプローチとなっている。

アルティエリさんとニコルズさんは、2016年5月に、1ヶ月間にわたって京都の総合地球環境学研究所（地球研）に滞在し、アグロエコロジーに関する数々の講演と短期実習コース（巻末写真2~4参照）、およびワークショップを行った。両氏の滞在中、アグロエコロジーとは何か、さらに、アグロエコロジーに関する議論の中心にある主権（sovereignty、尊厳ある人間の権利と、その回復）という概念をどのように考えるかについて、講演会およびワークショップの参加者の間でさまざまな議論が交わされた。特に、5月21~22日のワークショップにおいてご発表を頂いた本野一郎さん（京都精華大学）、澤登早苗さん（恵泉女学園大学）、橋本慎司さん（橋本有機農園）、日鷹一雅さん（愛媛大学）、吉川成美さん（県立広島大学）からは、アグロエコロジーに関する活発な議論に多大な貢献を頂いた。一連のイベントの概要については、下記のプロジェクト・ニュースレターに掲載されている。

<http://www.chikyu.ac.jp/fooddiversity/newsletter/file/NLno5.pdf>

アルティエリさんは、私が地球研でリーダーを務める個別連携型実践プロジェクト「地域に根ざした小規模経済活動と長期的持続可能性—歴史生態学からのアプローチ—」（小規模経済プロジェクト）（研究番号14200084）のコア・メンバーとして、カリフォルニアにおける有機農業とコミュニティ菜園の実践に関するサブ・プロジェクトを担当して下さっている（巻末写真1参照）。本年度でプロジェクトを終了するにあたり、アルティエリさんとニコルズさんから、第三世界ネットワーク（Third World Network）のウェストウッドさんおよびリムさんと共著で出版した本書を日本語に翻訳したいとの提案を受けた。

アルティエリさん、ニコルズさんと共同研究をおこなったことにより、小規模経済プロジェクトの研究活動においては、有機農業をはじめとするオルタナティブな食料生産活動の研究、先住民族コミュニティの研究と農村コミュニティの研究を統合する見通しが大きく進展した。また、2016年5月に行った、アグロエコロジーに関する一連のイベントの成果として、2016年京都アグロエコロジー宣言を発信することができた。本書の巻末には、付編として、同宣言の日本語版および英語版を掲載した。

日本語への翻訳をご許可いただいた4名の著者の方々に、心からお礼を申し上げたい。日本語版を作成するに当たり、翻訳者の柴垣明子さんには、タイトな出版スケジュールにもかかわらず、素晴らしいお仕事をいただいた。また、翻訳の内容についてコメントをいただいた日鷹一雅さん（愛媛大学）、山口富子さん（国際基督教大学）、松平尚也さん（京都大学・耕し歌ふあーむ）、ステーブン・マックグリービーさん（地球研）、田村典江さん（地球研）、小林舞さん（地球研）には、大変お世話になった。いただいたすべてのコメントを生かしきれなかった部分は、プロジェクト・リーダーである私の責任である。

末筆ながら、上記の方々をはじめとしたお世話になった皆様に深く感謝の意を表す。なお、本書は下記のウェブページよりダウンロードが可能である。<http://www.chikyu.ac.jp/fooddiversity/>

2017年3月

小規模経済プロジェクト・リーダー 羽生 淳子